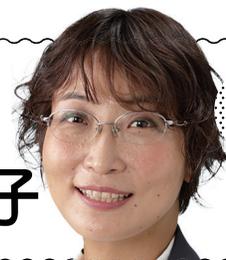


日本共産党

高槻市議員

きよた 純子



ニュース

2024年3月23日

4月号 No.127

発行：日本共産党高槻市議員団 きよた純子
連絡先：議員団控室（市役所内）
TEL072-674-7230 FAX072-674-3202



日本共産党高槻市議員団 代表質問

市民の暮らしを支え 子どもの育ち保障し、災害から 命守れる高槻を

2月28日に濱田市長が表明した施政方針に対し、市議会の各会派の代表質問が3月6日に行われました。日本共産党高槻市議員団からは代表できよた議員が質問しました。その内容の一部を掲載します。

はじめに

よつてもたらされたものです。

長きにわたる経済の停滞により、すでに暮らしが疲弊し、経済の先行きへの展望が持てない状況です。その上に、物価高騰です。「失われた30年」は自然現象ではなく政治に

物価高騰への対策

食料品の値上げは、2023年の累計で3万2396品目となり、過去30年間でも例を見ない規模です。2024年1月から5月までに値上げが決定している食料品は、

の給付を」と求めました。市長は「安心して市民生活や事業活動をおくっていただけるよう、国の動向を注視し、市民・事業者に寄り添った支援を検討します」と答弁しました。

子ども医療費無料化

水道基本料金の無料化継続については答えませんでした。

子どもの医療費助成は、18歳までの一部負担500円を来年4月から無料にする方針です。また、入院食費療養費は所得制限をなくし、すべての子どもに助成します。

た。市長は「虫歯やアレルギー疾患など定期的かつ長期間の通院が必要な場合や、子ども

河川の氾濫時の避難

の突発的な病気の際に必要な医療を受けることができ、子どもの健全育成につながるものと考えています」と答弁しました。

きよた議員は「病気の早期発見につながる重症化を防ぐことや、歯科診療では永久歯に影響する口腔崩壊を防ぐなど効果は大きい」とし、完全無料化することの意義を問いました。

淀川沿いの住民の方からは、洪水時の避難について不安の声が寄せられていました。今回、何よりも命を守るために「洪水時緊急安全確保施設」の指定と表示看板の設置計画が提案されています。

を「小中学校30施設を新たに指定する予定です」と答弁。また、住民にはどんな方法で周知するのかとのきよた議員の質問に、市長は「大規模水害時における避難行動などをわかりやすく取りまとめたパンフレットを作成し、本年6月に市内全戸に配布する予定です」と答弁しました。



高槻市が進める義務教育学校の設置について

高槻市教育委員会は「義務教育9年間の一貫性・連続性のある教育活動を行う義務教育学校の設置に向けた検討を進め、全ての学校を義務教育学校にすることを視野にいれている」としています。

義務教育学校に関する審議をおこなう「高槻市教育審議会」を設置（委員は15人以内、

学識経験者、関係団体代表、保護者、学校関係者、公募市民）し

ます。2024年度から審議を開始し、検討スケジュールなどは審議のなかで具体的に決めていくこととす

学校統廃合をとまなう義務教育学校は問題

各地で進められている義務教育学校は小中

学校の統廃合がともなうものです。

現在も高槻市で実施している連携型小中一貫教育と、新たな義務教育学校の制度とでは教育内容にそれほど違いがありません。

しかし、小中学校にはそれぞれに校長がいるのに対して、義務教育学校は1人の校長で良いとするものです。

行革的な考えを強く感じます。学校統廃合をとまなう義務教育学校の学校規模、通学時間、交通安全、防犯の問題など、それぞれの学校に課題があると思

います。私は3月7日の市議会本会議で「性急に進めるべきでない」と主張しました。

市民都市委員会質疑

再エネ普及の障害 乱開発許さない 太陽光発電施設の適正な設置のための条例

昨年12月に実施したパブリックコメントでは、太陽光発電施設の設置についての条例案（3月議会に条例制定）に市民から50件の意見が出されました。メガソーラーなど、自然環境の破壊。地域の安全

に問題のある大規模開発を伴う事業を規制することを求める意見、その一方で、気候危機打開に向け再生可能エ

ネルギーを増やして欲しいという意見などが多数ありました。私は再エネ促進へと

市の取り組みの充実を求めました。

住民意見の反映を

条例では、協定書の締結について「近隣関係者と協議を締結しなければならぬ」という文章があります。

住民と事業者で双方の意見が対立する時に、重要な項目です。きよた議員は「住民の意見が反映されるよう、市

は丁寧な対応を」と求めました。



保育士配置基準の見直しについて

安全であるべき保育所で、子どもへの虐待や不適切な保育が各地で発覚し、保護者や保育士など関係者に衝撃を与えています。現場の切実な要求と粘り強い運動、それと結んだ世論の広がりが国の政治を動かしています。

2024年度から保育士1人が担当する子どもの人数の基準が4歳児・5歳児は現在の30人から25人、3歳児は20人から15人に改善されます。国の対応として、基準以上の保育士配置をした場合に保育所の運営費を増額する「加算」を行うとしていますが、これでは全ての保育所で保育士が増員されることにつながりません。しかも、「当分の間は従前の基準での運営を認める」と経過措置を設けています。全産業平均と比べても低い保育士の賃金などを背景に慢性的な保育士不足の問題があります。抜本的な保育士の処遇改善と実効性のある保育士配置基準の見直が必要です。そして、保育士が希望をもって働き続けられる環境をつくるのが政治の責任です。さらなる見直しを求め、声をあげていきましょう。

クロスパル高槻 トイレ洋式化実現

3月議会にクロスパル高槻の「トイレ洋式化改修工事」の予算が計上されました。今年度は1階から3階のトイレを改修する予定。今後の計画は工事の進み具合で決まるため、はつきりと決まっていますが、全フロアでトイレ改修を進めていくとしています。きよた議員は「工事が遅れることのないように、できるだけ早くしてください。また、生涯学習センター2階の多目的ホールのトイレはみんな和式です。そちらも洋式化を早急にしてください。」と求めました。

673-0002

生活相談 ☆ホットライン お困りごとはありませんか？

日時：4月25日 木 14:00~15:30 市議員

当日は電話で相談を受け付けます。電話イラストの上の番号におかけください。 きよた純子

